

進捗報告書（実行団体）

事業名:	いのちまるごとプロジェクト事業
資金分配団体:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	認定特定非営利活動法人ハーモニーネット未来
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	岡山県
事業対象者:	ひとり親（母子）家庭(生活困窮家庭・DV被害者・障がい児（者）)

Version 1.2

日付： 2021年3月22日

I. 事業概要

事業概要
新型コロナウイルス感染の長期化に伴い、金銭・食、不安と先の見えない精神的な不安の両面に寄り添うことにより生まれる「安心感」の提供。 ◎おなか一杯食べる幸せ、食べるものがある「安心感」の提供 ・共生型こども食堂・しんぐるまざあずカフェ ・フードバンクを活用した、ドライブスルー形式の食料・日用品配布および宅配「こども宅食」 ◎子どもへのオンライン学習支援および、悩みや不安を感じている親の相談窓口 ・タブレット&wifi貸与によるオンライン学習支援 ・相談窓口設置、精神的な安定による自立をめざす ・スタッフ研修（子ども・DV被害者支援） ◎親子の自立をめざした、安全安心の居住空間の提供 ・母子ための共同住宅（ステップハウス）整備 ◎多様な主体による支援体制の仕組み構築 等

II. 進捗報告の概要

総括
コロナ禍の感染症拡大防止のためこども食堂・まざあずカフェは開催できていないが食料や日用品の配布、配送を行うことで子育て家庭とつながり必要な時に必要なものが届くしくみは継続して行なっている。生活困窮により塾等に通えない子どもにオンライン学習を行い、親子に寄り添った学習サポートや相談を進め効果が上がっている。「ハーモニーはうす」の整備も終わり、母子の人生の再スタートを気持ち良く迎えられる準備も出来た。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
◎共生型こども食堂開催(月1回) ・しんぐるまざあずカフェ同時開催(月1回) ・開催できない場合はドライブスルー形式のフードパントリーか弁当配布。 ・宅配「こども宅食」(月1回) ・生活・家計相談（随時） ◎オンライン学習支援端末の貸し出し20世帯および生活の悩み、不安を感じている親の相談延べ60件 ◎母子のための共同住宅シェアライフ「ハーモニーはうす」（ステップハウス）の風呂増設・合併浄化槽設置に伴う便所の改修等、住環境の整備。 ・DV被害を受けた母子家庭を年間受け入れ、自立に向けた支援を行う。入居2世帯+退去2世帯（自力での生活拠点の確保）	◎子ども食堂：コロナの感染拡大の影響により現在閉鎖中(今後コロナの状況や他団体情報を集め再開に向け検討中)閉鎖中はフードパントリーを月一回開催し食料&日用品&手作り弁当を配布。カフェもコロナの影響で中止しているが状況を見ながら開催に向け検討中。事情で来訪不可世帯には箱に詰め食料品等を宅配。 ◎オンライン学習：登録の親子へアンケート実施9名中7名が受講継続希望。「コミュニケーションが苦手な息子は安心して家で画面が見続けられている」「学校の成績が上がった。」「新しい学習方法は楽しい」等の回答を得た。継続した学習支援となるよう検討ミーティングを行い進める。 ◎相談：コロナの影響による世帯収入減やDV等の理由で行政より問い合わせや紹介の子育て家庭が増。母子支援員より祖母と孫の2人世帯は生活相談やフードバンク利用等を行い、オンライン学習につなげる予定。 ◎ハーモニーはうす：風呂場1か所増設・トイレ改修無事終了、住みやすい住環境を確保できた。他行政から紹介DV・借金でハーモニーはうすに入居された母子は、当法人と共に学校、行政、弁護士等と繋がり、離婚成立、生活保護受給、新しい住まいを手に入れることができた。

活動	進捗状況	概要
○「おなか一杯食べる幸せ」、 食べたいときに食べるものがある 「安心感」の提供 ○オンライン学習支援および生 活の悩み、不安を感じている 親の相談窓口 ○親子の自立をめざした、安 心安全な居住空間の提供	(ほぼ計画通り)	◎フードパントリー（第4日曜日・平日） 延べ290世帯 ・手作り弁当配布（第4日曜日のフードパントリー時）延べ148世帯511食 ・宅配「子ども宅食」（配達希望の家庭に食料等を送る）登録11世帯 ◎オンライン学習『みらい』：6世帯9名登録（タブレット1世帯1台貸出） 動画アップ数：累計74動画 ◎ハーモニーはうす：1世帯(4名)ステップハウスとして現在利用中。市営住宅入居に 向けてサポート中。 ◎各種相談も実施：延べ275件、月1回のフードパントリー時には10名程度、それ以外にも 随時相談を行っている。相談内容は、生活相談、子どもの発達、家計相談、離婚調停、借 金、子供の進学など多岐に渡る。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>食料配布数は今後もコロナの影響等により困窮世帯が増える可能性が高いため、目標値以上の延べ500世帯を目指してさらに活動を進めていく。</p> <p>事業を実施する中で、ひとり親家庭とくに母子家庭は収入がコロナ禍により今まで以上に減少し、子どもを一人で育てている為さらに生活は困窮していく家庭が増えていくと感じた。「ひとり親だが収入のある親と一緒に暮らしている」「ぎりぎり非課税にならない」などの理由で、臨時給付金やさまざまな支援制度にあてはまらないひとり親家庭・生活困窮家庭が存在するという事も分かった。</p> <p>私たちは、生まれ育った環境で子どもの将来が左右されることのないよう、どのような状況の家庭でも豊かな成長、発達ができる地域環境をめざし、引き続き、「食べる・学ぶ・暮らす」の3本柱を充実、拡大させ、子どもの育ちを支援していく。まず地域で子ども食堂等を行っている団体と情報交換の場を設け、困りごとを気軽に相談できる場所を地域につくり、行政、企業、専門機関、NPOが連携し必要な時に子育て家庭をサポートしていく仕組みを構築する。どの相談窓口へかけこんでも必要な支援がノンストップで受けられるよう支援体制を強化していきたい。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥6,657,100	¥4,811,500	¥11,468,600	¥5,013,463	44%
	管理的経費	¥1,265,700	¥1,265,700	¥2,531,400	¥582,000	23%
合計		¥7,922,800	¥6,077,200	¥14,000,000	¥5,595,463	40%
補足説明		特になし				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>共生型子ども食堂とまざあずカフェは昨年3月まで行っていたが現在コロナ禍で開設できていない。地域の誰でも参加可能な食堂だが、中でもひとり親家庭の親子は安心して理解のある人たちに囲まれて思いを話したり、遊んだりご飯を食べることで「明日からも頑張ろう」という気持ちになっていたがそれがなくなり、悩みを一人で抱えることが多くなっているのではないかと懸念される。子ども食堂の代わりに始めたドライブスルー形式のフードドライブ時に担当スタッフが一人一人に寄り添い、その時々での困りごとや思いを聴く時間を持つように配慮していく。ヒヤリングの内容はスタッフ間で共有し、制度につなげた方が良いものは担当課と連携し、その人の生き方に寄りそった支援を行う。オンライン学習利用世帯は想定3割程度にとどまっている。フードバンク登録世帯に勤めてはいるが親自身毎日の生活が忙しくオンライン自体に積極的でない世帯が多いため今後周知の方法を再度検討する。</p>

VII. その他

自由記述

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	山陽新聞(2021.1.30)にて、オンライン授業について掲載
広報制作物等	無	いのちまるごとプロジェクト事業のリーフレット18000部
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置。窓口については、チラシを配布、事務所内に掲示で周知している